

喬成会在宅事業部

症 例 概 要 氏名：80代 男性 要介護度2

病名：脳梗塞 大動脈弁狭窄症 狭心症 心房細動 心不全

経過：2023年11月27日、心原性脳梗塞にて緊急入院。その後、リハビリ目的で花川病院へ転院。約20年前より心房細動があり、継続加療していた。

2024年3月、TAVI目的で他院へ転院し、治療後は花川病院へ再転院。治療後、ふらつきや認知機能の改善がみられた。

退院後の生活に不安があり、訪問看護・訪問リハビリを導入。高齢の妻への介護負担もあり、介護老人保健施設オアシス21へ入所。その後、ご本人の希望により、2025年2月、サービス付き高齢者向け住宅「花びりか」へ入居となった。

内 容

高齢のご夫婦二人暮らし。脳梗塞による麻痺があり、日常生活に介助を要するご主人を、奥さんは懸命に支えてきた。しかし介護疲れから、奥さんは悔し涙を流しながら老健オアシス21への越冬入所を決断。ご主人も「これ以上妻に迷惑をかけたくない」と、サ高住「花びりか」への入居を希望された。

入居後、奥さんは毎日のように面会に訪れたが、帰った後のご主人は寂しそうに過ごすことも多かった。そんな中、ご主人から「妻の誕生日を家で二人でお祝いしたい」、奥さんから「大切にしてきた庭の花を夫に見せたい」という願いが聞かれた。

私たちは二つの願いを「バースデー外泊」として実現することにした。セラピストは自宅前の5段の階段昇降を訓練。介護職員へ介助方法を共有し、看護師は当日の体調管理のため同行。ケアマネジャーは福祉用具を手配し、当日も同行した。

当日、ご主人は階段を力強く上り、玄関で「おいらのウチだー!」と満面の笑顔。奥さんは涙を流し「よかったね、よかったね」と寄り添った。満開の庭を眺めながら誕生日を祝い、二人はかけがえのない時間を過ごした。この外泊をきっかけに、ご主人はサ高住の行事にも積極的に参加するようになり、他ご入居者との交流や笑顔が増えた。

「家を諦める」のではなく、「外泊という形で自分の城を持ち続ける」。ご本人とご家族の願いに寄り添い、多職種力で夢を叶えた「キラキラ介護」である。

【多職種連携】ご本人・ご家族の思いを共有し、夫婦で自宅で過ごす願いを実現

【介護】日常生活を支援し、外泊時の安全な移動・階段昇降を支援

【ケアマネジャー】希望をくみ取り外泊を計画。福祉用具を手配し、当日も同行

【看護師】外泊前後の体調を確認し、当日は同行して健康管理を実施

【セラピスト】5段の階段昇降訓練を行い、自宅に帰りたい思いの実現を支援